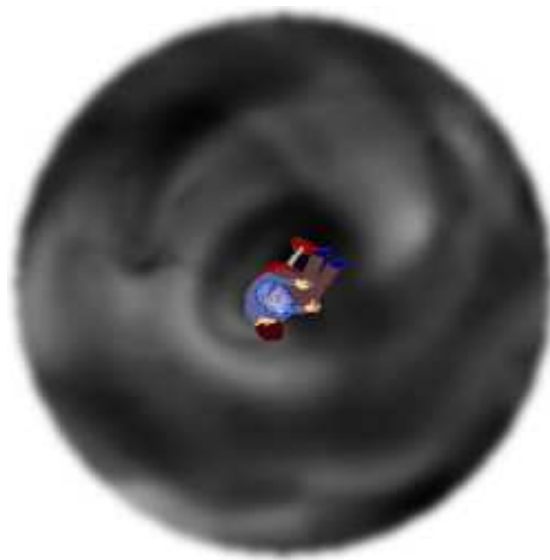


連作絵本 想像という現実～6

愛に飢えて

— 快楽殺人ほか、多様な性愛の心理 —



東郷 潤

キッカケは性への罪悪感、善悪中毒でしょうか。 それとも、虐待や愛への誤解でしょうか。 あるいは、嫌な現実からの逃避でしょうか。 見えないものへの怯えでしょうか。

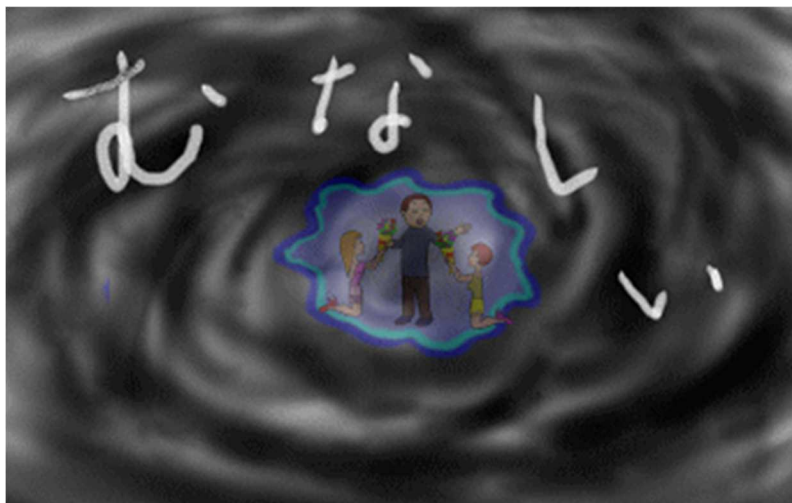


理由はどうであれ、性愛に関して心の扉を現実から閉ざし、想像の世界に遊ぶ人々がいます。

現実から閉ざされた心の世界。　そこは自由で安全ですが、空しく退屈で現実感がありません。

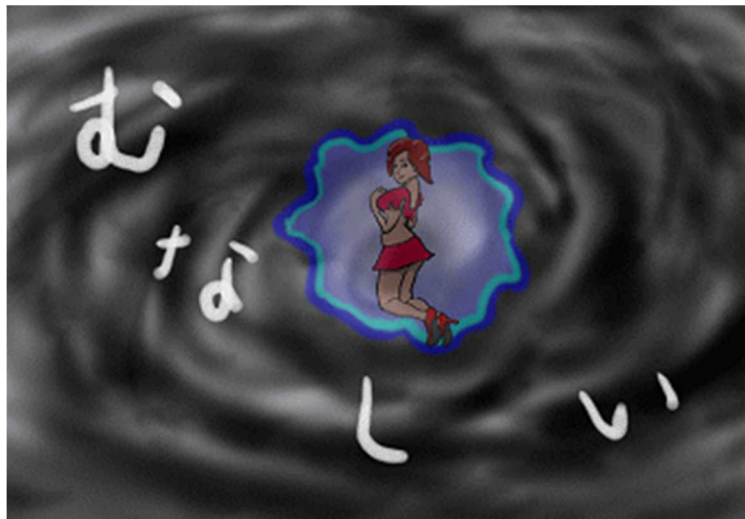
…そりゃ、そうです。そこにあるのは、現実とは無関係な、ただの想像なのですから。

ですから、こんな素敵な想像をしてみても…。



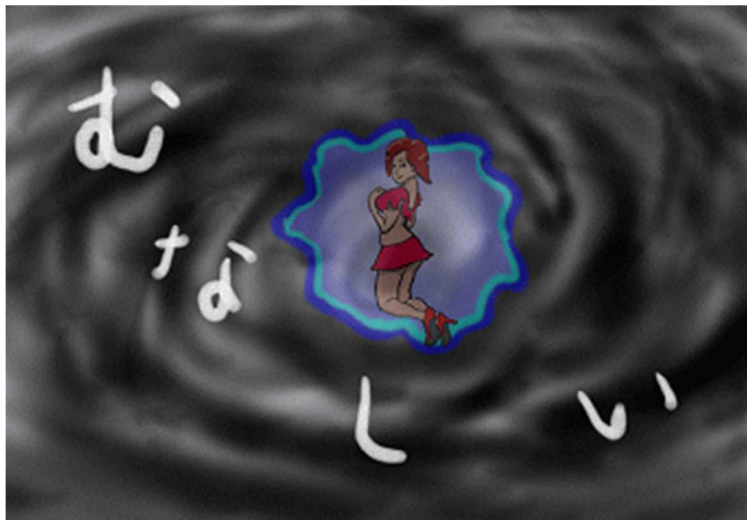
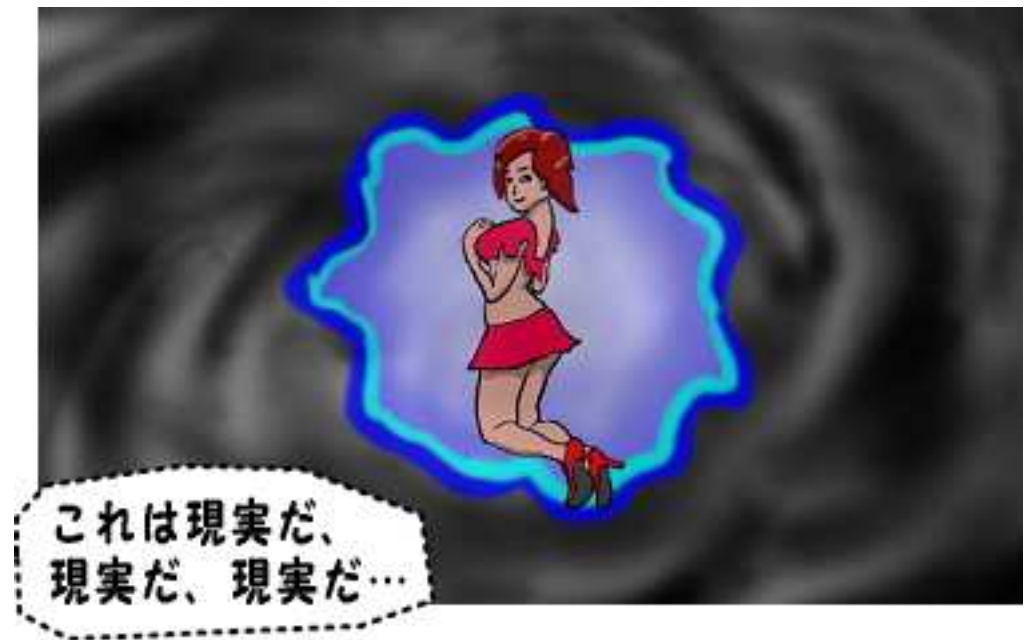
当然、空しくなるんです。

そんなとき、空しさを忘れるために刺激を求めて、違う想像を試してみることは、ごく自然なことでしょう。



でも刺激は一時的なもの。すぐに空しくなっちゃいます。

そんなとき、空しさを打ち消そうと、ただの
想像を現実だと信じようとすることも、やは
り自然なことでしょう。



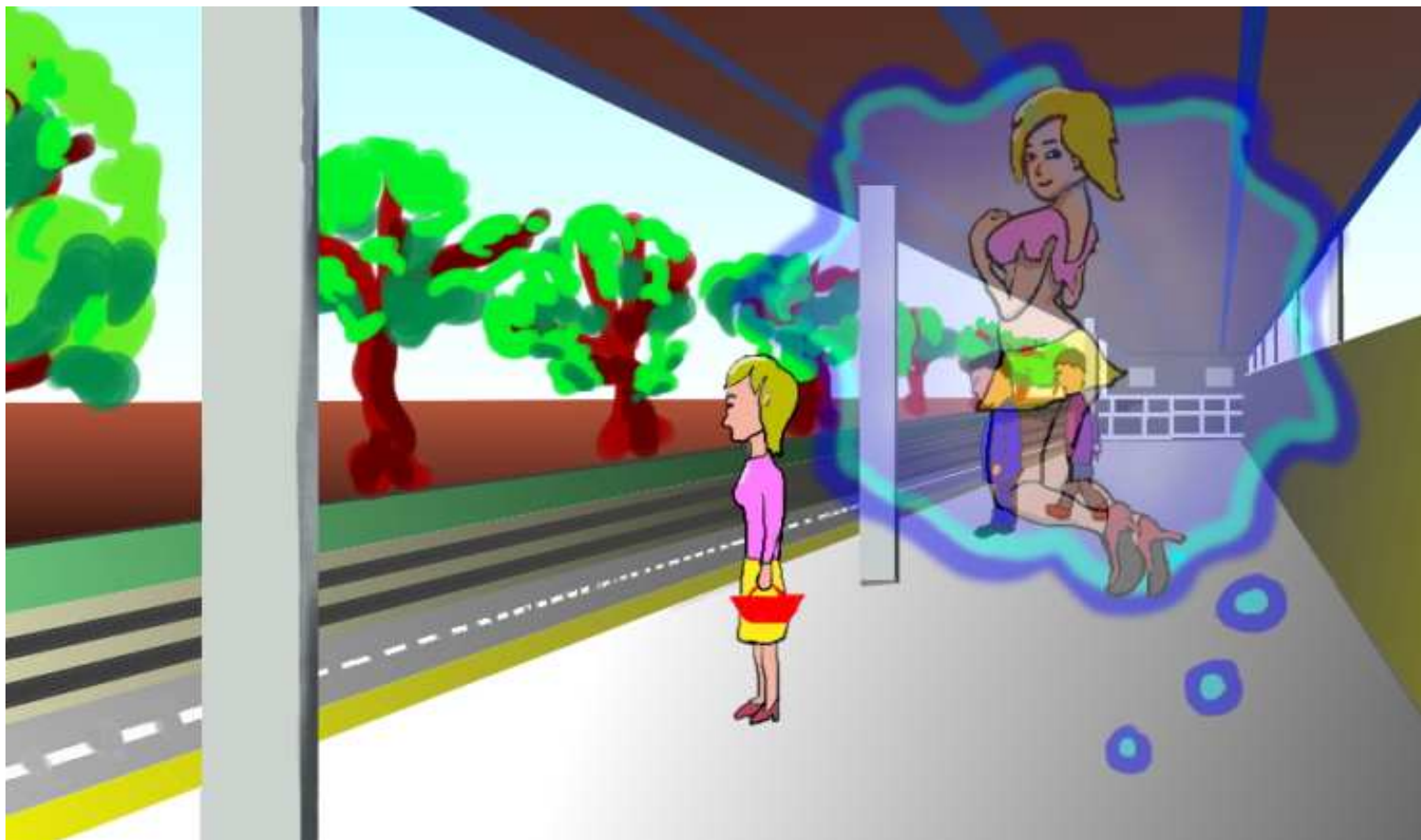
でもしよせん想像は想像です。
すぐに空しくなっちゃいます。

そんなとき、想像の現実感を高めるために、現実の一部を想像に絡（から）めてみることも、やはり自然な工夫でしょう。



絡める現実、想像を壊さない範囲にとどめる必要はあるのですが・・・

でもいくら現実を絡めても、しょせん想像は想像です。



すぐに空しくなっちゃいます

フェティシズム

そこで空しさを忘れるために刺激を求めて、違う想像をしてみます。現実感を高めるために、少しばかりの現実も絡めて、何もかも現実だと信じようともします。



…ちなみに、物は話をしないので、せっかくの想像を壊される危険は無いのです。



でも、やっぱり空しくなっちゃいますね。¹

¹ ●空しさからは必ずフェティシズムが生まれるという意味では無い。こういう心理もあり得るという例としてお考え頂きたい。●対象物は、想像をかき立てるのに使うだけなのでハイヒールに限るものではない。下着でも何でも想像力が刺激されるものなら。

サティズム

そこで空しさを忘れるために刺激を求めて、違う想像をしてみます。現実感を高めるために、少しばかりの現実も絡めて、何もかも現実だと信じようともします。



…ちなみに、想像を実行に移した場合ですが、現実の相手を暴力などで怯えさせ協力させることが出来れば、一時的には、想像の現実感をさらに高められるかも知れません。

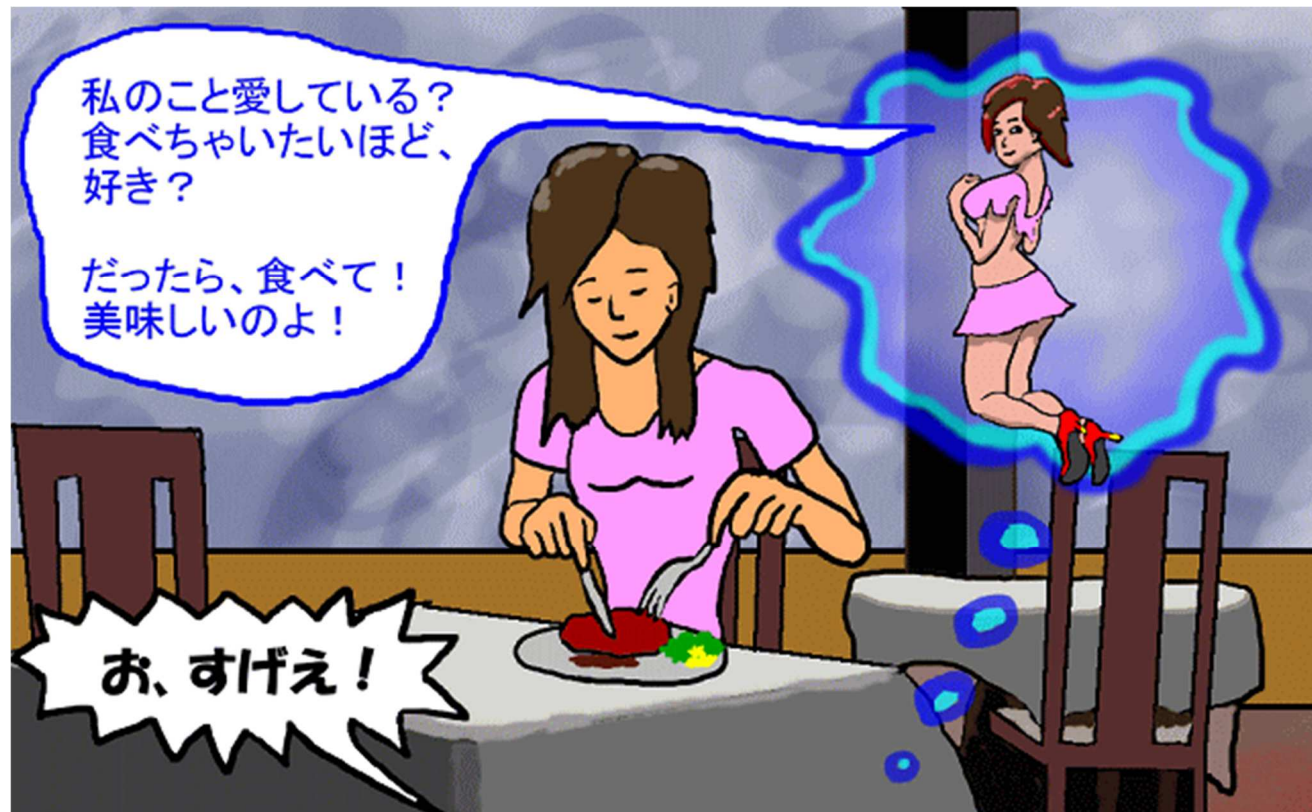


でも、やっぱり空しくなっちゃいますね。²

² ●フェティシズムは必ずサディズムに発展するという意味では無い。人には好み（性的嗜好）がある。好みに応じて、フェチの想像をしたり、サドの想像をしたり、色々だろう。●「愛は命令から生まれる」という誤解や異性へのある種の思い込み（例；女は男に従うもの）もサディズムの想像の助けとなるだろう。

カニバリズム

そこで空しさを忘れるために刺激を求めて、違う想像をしてみます。現実感を高めるために、少しばかりの現実も絡めて、何もかも現実だと信じようともします。



ちなみにこの想像は、カニバリズムと呼ばれるそうです。人間の持つ想像力って、本当にすごいですね！



でも、やっぱり空しくなっちゃいますね。³

³ ●これもサディズムは必ずカニバリズムに発展するという意味では無い。好みに応じてフェチの想像をしたり、サドの想像をしたり、カニバリズムの想像をしたり、また別の想像をする人もいるだろう。また刺激を高めるために、それぞれの想像の中身をより過激化したり・より現実感を持たせる工夫をしたり、とそこには色々なパターンがあるだろう。

●カニバリズムなどの想像を楽しむ人が必ず性犯罪を犯すという意味でも無い。想像と現実の区別をするか・否かには決定的な違いがある（連作絵本「駅のホームにて」および「人違い」をご参照ください）。

快樂殺人

そこで空しさを忘れるために刺激を求めて、違う想像をしてみます。現実感を高めるために、少しばかりの現実も絡めて、何もかも現実だと信じようともします。



これもまたすごい想像力です！ …ちなみに想像を実行した場合のことですが、死んだ人は話をしないので、せっかくの想像を壊される危険は無いのです。

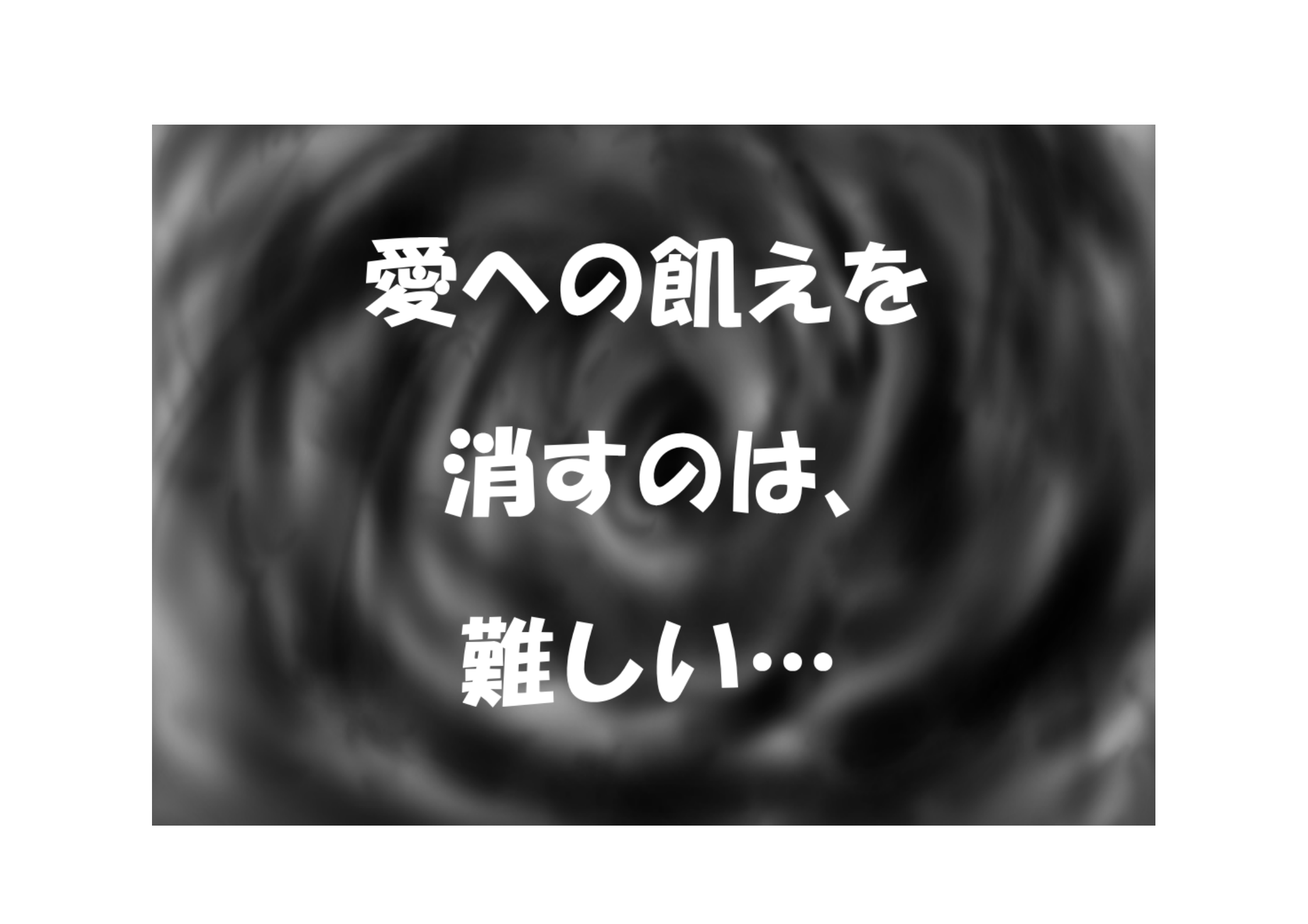


でも、やっぱり空しくなっちゃいますね。⁴

⁴ ●これもカニバリズムは必ず快樂殺人に発展するという意味では無い。また快樂殺人の想像を楽しむ人が必ず性犯罪を犯すという意味でも無い。
●想像を実行した場合、死んだ人は話をしないので想像を壊される危険は直接的にはないが、想像が想像であるという事実は変わらない。

たとえ誰とでも、たとえどんなHでも、
現実への扉を閉めた心の世界では出来るけど、





愛への飢えを

消すのは、

難しい...

あとがき ―絵本「愛に飢えて」

この絵本は、連作絵本「想像という現実」の6作目という位置づけで執筆したものです。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2010